



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center

地域医療を支えて
—90周年—

CHALLENGE

第3回健康ふれあいフェスタ

次の100年に挑む

CONTENTS

- 院長挨拶 ①
- 赴任医師の紹介 ②
- 第3回健康ふれあいフェスタ ⑤
- 放射線治療における UV マーカーの使用を開始しました... ⑦
- 京都中部総合医療センター看護専門学校 卒業証書授与式... ⑦

- 京都中部総合医療センター看護専門学校..... ⑧
- 「語られる看護のこころ」1年目看護師ナラティブ発表会・
2年目看護師ケースレポート発表会 ⑨
- 看護の質を高める現場の探究..... ⑨
- あなたの健康を守る、年に1度の大切なチェック..... ⑩
- 駐車場料金改定のお知らせ ⑪

地域医療支援病院 紹介受診重点医療機関 臨床研修病院
救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院 第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院（地域災害医療センター）
DMAT 指定医療機関 認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096

<https://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





2026.4
Vol.68
春号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して適切な医療を行います。
2. 地域医療支援病院として、地域の医療・介護・福祉等と連携しながら、専門診療を推進して地域完結型医療の中心的役割を担います。
3. 第二種感染症指定医療機関として、二類感染症もしくはは新型インフルエンザ等感染症に対応した医療を提供します。
4. 救急医療、周産期・小児医療、災害医療を充実させ、いつでも安心して受けられる医療を提供します。
5. 地域がん診療病院として、集学的医療を推進し、高度ながん医療を行います。
6. 働き方改革を推進するとともに、チーム医療を強化し、医療の質・安全性を高めるため、すべての職員の資質向上に努めます。
7. 公営企業としての役割を全うするため、経営効率を高め、健全経営を遂行します。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿報の保護を受ける権利
5. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
6. 自分の健康情報を正確に提供する責務
7. 説明を理解するまで問う責務
8. 病院での規則に従う責務



院長挨拶

満開の桜のもとで

院長 たつみ てつや 辰巳 哲也



今年もまた病院の周りで満開の桜が咲く季節となり、2026年度が始まりました。医療と介護が融合する超高齢社会となり人的資源が限られる中で、すべての職種における働き方改革への対応、医療DXの促進、新たな地域医療構想に基づく病院間での役割分担・連携の構築など、将来を見据えて病院が取組むべき課題は山積しています。一方で、従来からの物価・エネルギー価格・診療材料費の高騰に加えて、アメリカ・イラン戦争によりホルムズ海峡を通る船舶が航行出来なくなり原油価格が大幅に上昇するなど、今後の世界経済の動向は先行きが読めない状況が続いています。

急速に進む超高齢社会に対応するための地域医療構想の到達点であった2025年が過ぎ去り、2026年の診療報酬改定は2040年を見据えた「新たな地域医療構想」に向けた新しい局面に突入しました。今回の診療報酬改定は12年ぶりに3.09%の全体プラス改定となり、急性期・高度急性期入院医療、業務の効率化・負担軽減等に向けた取り組み、救急医療などに配慮した改定となりました。しかし、公立病院等では人事院勧告を踏まえた給与改定に基づく給与費支出が大きいのしかかり、なかなか医業収支差額を好転させることが困難な状況です。これだけ診療材料費・薬品費が高騰する時代となったことも鑑みて、消費税に係る病院負担の制度設計の見直しを含めた抜本的改正も必要に思います。

近隣の桜が満開の4月1日、新たに91名の方々の新採用者辞令交付式が厳粛に行われました。初々しい新職員の皆さまの新たな門出を心からお祝い申し上げます。医師部門では総合診療科、内分泌・糖尿病・代謝内科、整形外科、小児科、麻酔科と放射線科が増員となり、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、脳神経内科、総合診療科、外科・消化器外科、整形外科、泌尿器科、小児外科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、歯科・口腔外科は一部メンバーが変わりました。新たに赴任していただいた先生方のお力で、診療が一層充実することを期待しています。特に43名という多くの看護師の皆さまに入職していただいたことは看護師不足という課題を抱える当院にとって大変喜ばしいことと感じております。医師・看護師以外にも4月から勤務いただけるすべての職員の皆さまには、心からの歓迎と今後のご活躍を期待しています。

3月28日にはガレリア亀岡で第3回となる「健康ふれあいフェスタ」を開催いたしました。健康ふれあいフェスタは普段ゆっくりお話しできない市民・町民の皆さまに病院職員が身近に寄り添える場を作りたいと願い、私が企画したものです。今回は「学ぼう！心臓と血圧の世界」と題して循環器内科が主催させていただきました。500人ものご参加を頂き、京都新聞にも大きく取り上げていただきましたこと、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

京都中部総合医療センターは今年で創立90年を迎えます。地域医療支援病院としての責任と自覚を持ち、新興感染症にも対応し、最適な医療を住民の皆さまに提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。地域の皆さまが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会が続くことを願っております。今年も皆さまの春がさわやかで心暖かなものでありますよう、お祈りしております。



赴任医師の紹介

総合診療科

医師 ^{よしだ さおり} 吉田 沙織 (令和4年卒)

これまで医仁会武田総合病院で初期研修から診療に携わってまいりました。患者さんお一人おひとりに寄り添い、安心して受診していただけるよう丁寧な診療を心がけてまいります。地域医療に少しでも貢献できるよう、日々精進してまいります。未熟な点も多くございますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



循環器内科

医長 ^{むなかた じゆん} 宗像 潤 (平成29年卒)

京都府立医科大学大学院を修了し、この度赴任させていただくこととなりました。循環器内科一般に加え、大学院では不整脈グループに所属し研鑽を積みました。動悸や脈の乱れ、息切れなどでお困りのことがございましたらお気軽にご相談いただけますと幸いです。南丹地域の医療に貢献できますよう努めさせていただきます。至らぬ点もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



医師 ^{ばんどう とくあき} 坂東 篤明 (令和5年卒)

患者さんがご自身の病気を正しく理解し、治療に主体的に取り組んでいただくことが大切だと考えております。学生時代から続けている水泳で培った体力と根気を活かし、丁寧な説明を心がけながら診療にあたっております。短い期間ではございますが、皆様のお役に立てるよう精いっぱい努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



医師 ^{みずたに ともお} 水谷 友直 (令和5年卒)

昨年度までは京都岡本記念病院に勤務しておりましたが、縁もありこの度内科前期専攻医として勤務させていただきましたこととなりました。患者さんや家族様に寄り添い、一人ひとりに適したよりよい医療を提供できるように尽力してまいりますので、不調など何かありましたら気軽にご相談いただければと存じます。未熟者であり至らぬ点もあるかとは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



消化器内科

医師 ^{さとう たけひろ} 佐藤 健大 (令和5年卒)

専攻医1年目は京都第一赤十字病院で研修しておりました。丁寧な診療を心がけ、消化器内科医として、内科医として成長できるよう、また南丹地域の医療に貢献できるよう精一杯努めてまいります。また私の地元にも近く、この地域で働けることを大変楽しみにもしております。よろしくお願い申し上げます。



内分泌・糖尿病・代謝内科

医師 ^{すがの なつき} 菅野 菜月 (令和4年卒)

この度、京都第二赤十字病院から赴任いたしました。京都中部総合医療センターの一員として地域の皆様のお役に立てるよう、精一杯努力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



呼吸器内科

医師 ^{きむら なおと} 木村 脩人 (令和5年卒)

京都府立医科大学を2023年に卒業し、初期研修の2年に加えて呼吸器内科専攻医として1年、済生会吹田病院に勤務しておりました。この度、ご縁があり学生以来のこの京都の地で勤務させていただけることとなりました。至らない点が多々あるとは思いますが、少しでも南丹地域の医療に貢献できるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。



腎臓内科

医長 ^{なかた ともひろ} 中田 智大 (平成26年卒)

当院に2019年3月まで勤務してまいりました。その後、京都府立医科大学大学院、京都第一赤十字病院、京都山城総合医療センターを経て、ご縁があり再び赴任させていただくこととなりました。尿検査異常、腎機能障害など腎臓に関してお困りのことがあれば、何でもご相談下さい。分かりやすい説明と患者さん一人ひとりに適した診療を心がけ、皆様に貢献したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



脳神経内科

医師 ^{おか ゆうすけ} 岡 優介 (令和4年卒)

この度、舞鶴医療センターから赴任いたしました。脳神経内科は関連する疾患の特性上、患者さんと長くお付き合いすることが多い領域のひとつです。そのなかで患者さんとそのご家族に寄り添い、よりよい生活を送るお力添えができるよう尽力いたします。医師として未熟であり学ぶことも多い身ですが、誠心誠意診療に従事してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



赴任医師の紹介



外科・消化器外科

医師 ^{おざさ はるか} 小笹 悠 (平成 31 年卒)

消化器外科領域の疾患について、幅広く対応できるよう日々研鑽中です。患者さん一人ひとりの状態や思いに寄り添った医療を大切に、安全で質の高い治療を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



医師 ^{すち ゆうすけ} 須知 優介 (令和 6 年卒)

済生会滋賀県病院での2年間の初期研修を経て当院外科に勤務させていただくこととなりました。患者さんに真摯に向き合い、安心して治療を受けていただける丁寧な診療を心掛け、地域の医療に貢献できるよう日々努力してまいります。未熟な点も多いかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。



整形外科

副部長 ^{たかつじ けんた} 高辻 謙太 (平成 24 年卒)

これまで大学病院および関連施設において、肩関節・肘関節・スポーツ整形を主な専門分野として、診療および研究に携わってまいりました。日常診療においては、保存療法から手術治療、術後の機能回復までを一連の治療として捉え、患者さん一人ひとりの病態や生活背景を踏まえた治療方針の選択を大切にしています。患者さんが安心して治療に望めるよう、地域医療を担う医療従事者の皆さまと協力し、より良い医療の提供につなげていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。



医師 ^{やすはら みずき} 安原 瑞樹 (令和 5 年卒)

市立福知山市民病院にて2年間の初期研修ののち、京都府立医科大学附属病院整形外科で1年間研鑽を積んでまいりました。このたび、医学生時代の研修でも大変お世話になった当院で勤務させていただくこととなり、大変嬉しく思っております。まだ経験は浅いですが、南丹医療圏の皆様の筋骨格系を支えられるよう尽力します。よろしくお願い致します。



小児外科

医長 ^{しまむら あい} 嶋村 藍 (平成 27 年卒)

小児外科では、子どもたちの健やかな成長を第一に考え、一人ひとりに寄り添った質の高い医療を提供すべく先天性疾患から急性期疾患まで幅広い病態に対応しております。お子様やご家族様に安心して治療を受けていただけるよう、地域の先生方やスタッフの皆さんと密に連携を図り、小児医療を支える一員として日々診療に尽力する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



泌尿器科

部長 ^{かゆかわ なるひろ} 粥川 成優 (平成 20 年卒)

京都鞍馬口医療センターより縁あってこの度6年ぶりに京都中部総合医療センターに赴任することになりました。患者さん目線のわかりやすい説明、丁寧な診療を心掛け、南丹医療圏に少しでも貢献できるように精進いたします。よろしくお願い致します。



医師 ^{いだ よしゆき} 井田 喜之 (令和 2 年卒)

地域の皆さまに安心して受診していただけるよう、わかりやすい説明と丁寧な診療を心がけてまいります。幅広い疾患に対して、ガイドラインに基づいた安全で質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



産婦人科

医師 ^{ふじの さやか} 富士野 爽 (令和 5 年卒)

自治医科大学を卒業後、北部医療センターでの初期研修を終え、京都府立医科大学附属病院より赴任いたしました。産婦人科医として命の誕生に携わる責任を胸に、安全で安心できる医療の提供を目指してまいります。患者さんの思いに丁寧に向き合うことを大切に、日々研鑽を積んでまいります。よろしくお願い致します。





耳鼻咽喉科

うちやま もとほる
医長 内山 元晴 (平成 28 年卒)

この度舞鶴医療センターより赴任いたしました。南丹医療圏の皆様の健康に少しでも寄与出来るように、患者さんに寄り添った丁寧な診療を心がけます。何卒よろしくお願い申し上げます。



麻酔科

ありよし た え
部長 有吉 多恵 (平成 17 年卒)

昨年度まで京都第二赤十字病院で手術麻酔中心に勤務しておりました。南丹地域圏の医療に貢献できるよう精進して参りますので、よろしくお願い致します。



小児科

ふじた なおえ
医員 藤田 尚江 (平成 30 年卒)

これまで小児科医として急性疾患から慢性疾患まで日常の診療の中で担当してきました。お子さんやご家族に寄り添い、安心して受診いただけるように丁寧な診療を心がけます。そして地域の医療機関の先生方とも連携を図りながら地域のお子さんの健やかな成長を支える一助となれるように努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



放射線科

にしむら ともあき
医員 西村 朋彰 (平成 31 年卒)

昨年度まで京都府立医科大学附属病院の放射線科で経験を積んでまいりました。画像診断を通じて各診療科と連携し、南丹医療圏の皆様に安心して医療を受けていただけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



おう ゆうあ
医員 王 優碧 (令和 5 年卒)

小児科医として2年目となります。1年目は京都第二赤十字病院にて小児科診療に携わり、日々の診療を通して多くのことを学んで参りました。まだ経験は十分ではありませんが、子供たちとご家族が安心して受診できるよう、一人ひとりに丁寧に向き合う診療を心がけて参ります。これからも日々研鑽を重ね、地域の皆様のお役に立てる小児科医を目指して努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



はしもと かずき
医員 橋本 和樹 (令和 4 年卒)

放射線科医となってからは京都府立医科大学附属病院、京都第二赤十字病院でそれぞれ1年間ずつ働いて参りました。まだまだ至らぬ点多々ございますが、南丹医療圏の医療に少しでも貢献できるよう精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。



眼 科

よしたに よしひろ
医員 葭谷 泰大 (令和 2 年卒)

このたび滋賀県立総合病院より京都中部医療センターに赴任いたしました。地域の皆さまに信頼される医療を提供できるよう、丁寧な診療とわかりやすい説明を心がけてまいります。患者さま一人ひとりに寄り添い、安心して受診いただけるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



歯科・口腔外科

うえやま あきひろ
医員 植山 晃裕 (令和 5 年卒)

広島大学病院で研修し、その後一般歯科、さらに京都府立医科大学附属病院で勤務しておりました。南丹医療圏の患者さんに寄り添いながら、お口の健康から全身の健康を支えられるよう、日々誠実に診療し、さらに精進してまいります。何卒よろしくお願い致します。



ひいらぎ あや
医員 柁木 彩 (令和 4 年卒)

昨年度まで大学病院にて2年間勤務しておりました。これまでの経験で学んだことを生かし、患者さんに安心していただける丁寧な診療を心掛けてまいります。まだまだ未熟な点多くありますが、地域の皆さまの眼の健康に少しでも貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



第3回健康ふれあいフェスタ

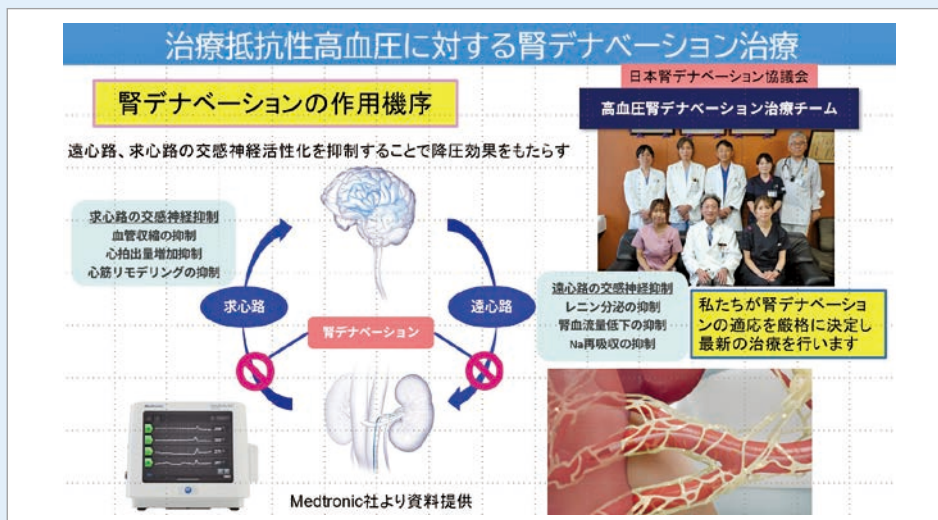
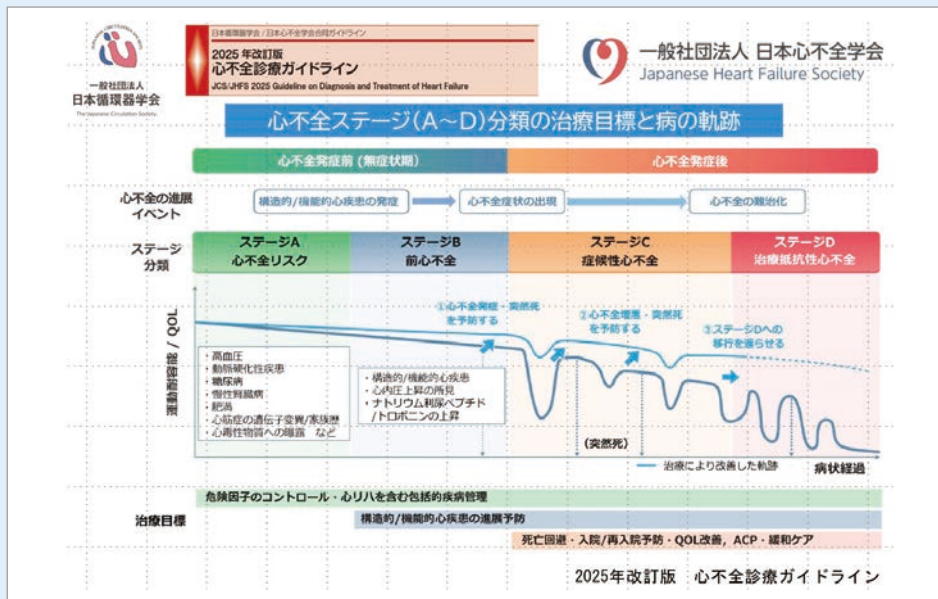
令和8年3月28日(土) ガレリア亀岡にて、第3回健康ふれあいフェスタを開催させていただきましたところ、貴重な休日にもかかわらず500人ものご参加を賜りまして、誠に有難うございました。

各ブースでは心臓カテーテルの実体験、心エコー体験、血管年齢測定、健康相談などにご参加頂きました。皆さま、最後まで熱心にご聴講頂きましたこと、スタッフ全員が感激しております。ご参加いただきました皆さまに心よりの敬意と感謝を申し上げます。



病院長 **辰巳 哲也** (たつみ てつや)

私は「心臓と血圧の世界」～最新の高血圧管理・心不全治療ガイドラインから～と題して講演をさせていただきました。長寿・高齢社会とともに心不全が増えています。最新のガイドラインを用いて心不全の各ステージ(A:心不全リスク, B:全心不全, C:症候性心不全, D:治療抵抗性心不全)に応じた予防・治療法について概説しました。特にステージA/Bの段階で心不全の発症を予防することが重要で、心不全の危険因子の一つである高血圧についても正しい測定法を詳しく説明しました。降圧目標(診察室血圧<130/80mmHg, 家庭血圧<125/75mmHg)を達成するために、減塩を含めた生活習慣の改善とともに適切な薬物療法が必要であることをお示しました。さらに今後、当院で予定している治療抵抗性高血圧に対する最新の治療法である腎デナベーションについて解説させていただきました。





私は「いざというときの救命と不整脈のお話し」と題して、特に重要な心室細動と心房細動について講演させていただきました。心室細動は反応のない場合に疑われる心停止で心肺蘇生が必要です。公衆なら助けを求めAEDを取り寄せますが、自宅で大切な人が倒れた場合は119番通報に続いて通信司令員の口頭指導を受けて救急車が到着するまで胸を圧迫し続ける方法を自作ビデオで説明しました。心房細動は脳梗塞の原因にもなり得る不整脈で、当院には完治が期待できるカテーテル手術（アブレーション）の紹介が増加しています。まずは自分で心房細動を見つける自己検脈の方法をブースでお伝えし、高機能シミュレーター（主に医療従事者を教育するための人形）で心房細動発作時の脈の触れ方を体験いただきました。この時の写真が京都新聞丹波版に掲載されました。



心房細動(しんぼうさいどう)
が見つかっただけで受診する必要がありますか？

- ✓ まずは「**かかりつけ医**」にご相談ください
- ✓ **京都中部総合医療センター**では心房細動のカテーテル治療(根治が期待できる**カテーテルアブレーション**)が受けられます


私は「最近の心臓血管治療カテーテルのお話し」を担当させていただきました。普段の外来では十分に説明できない心臓の解剖・生理や、冠動脈疾患に至る経過、低侵襲カテーテル治療の特徴について解説しました。講演後はカテーテル治療体験ブースを担当し、冠動脈モデルを用いて、一般市民の方々にワイヤー操作やバルーン拡張を体験していただきました。ワイヤーの細さに驚かれる方が多く、操作の場面では周囲の方々も含め、興味深く手技を見守る様子が印象的でありました。バルーン拡張まで体験し、治療が無事終了すると笑顔が見られ、「先生たちはこんな難しい治療をしているのですね」といった感想もいただきました。子どもから大人まで非常に多くの来場者にご参加いただき、医療を身近に感じていただく貴重な機会となりましたこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。



カテーテル治療の3ステップ

- ①カテーテル・ワイヤー通過**

 - 冠動脈にカテーテルを運び、病変血管にワイヤーを通す
 - 治療の土台作り
- ②病変部位の拡張**

 - 病変部位をバルーンで広げる
 - 病変部位をバルーンバルーで広げる
 - 血流を再開させる
- ③ステント・薬剤塗布**

 - ステントを置いたり、薬剤コーティングバルーンで薬剤塗布する
 - 再狭窄を防ぐ重要な仕上げ

※一般的な治療例であり、患者様の状態により異なります。

体への負担が少ない治療

- 1. 治療時間は短め**

 約50分
 1時間弱で終了
- 2. 局所麻酔でリラックス**

 負担を軽減
- 3. 小さなキズ口**

 局所麻酔薬
- 4. すぐに動ける、食事も**

 食事OK

※一般的な治療例であり、患者様の状態により異なります。

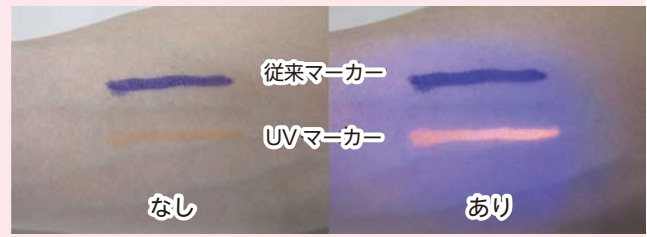
放射線治療における UV マーカーの使用を開始しました

診療放射線技師 うの たかひろ 宇野 貴大

放射線治療では、高い照射精度を保証するために体表面に消えにくいペンで目印を書くこと（マーキング）が一般的です。しかし、患者さんの中には、入浴時や更衣時にその目印（マーク）が見えることに抵抗を感じる人は少なくありません。



マーキング



UV ライト

当院では、そんな患者さんの抵抗感を少しでも軽減する方法がないかと考え、2026年1月から UV マーカーの運用を開始しました。今回導入した UV マーカーは、紫外線を当てた時にだけ発色する特殊なインクを使用しており、通常の光の下ではほとんど見えません。一方で、治療時には人体にとって安全性の高い紫外線ライトを用いることで明瞭に確認ができ、従来と同様に高い精度で放射線治療が提供可能です。患者さんの負担を軽減しながら、治療の質を損なうことなく運用できる点が、今回の導入における大きな利点です。

当院では、これまでも患者さんの生活の質に配慮した医療の提供を心がけてまいりました。今後も最新の技術や知見を積極的に取り入れ、患者さん一人ひとりに寄り添った医療を提供できるよう努めてまいります。

京都中部総合医療センター看護専門学校 卒業証書授与式

教務主任・第3学年担任 なか お 中尾 みゆき

春の訪れとともに、心地よく温かい日差しが降り注ぐ季節となりました。2026年3月6日、全ての教育課程を終え晴れて卒業される学生の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。34名の卒業生を送り出せることを心から嬉しく思います。また、ご家族の皆様にはご子息・ご息女を深い愛情を持って支えていただきましたこと、本校の教育へのご理解とご支援をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

今回の卒業生は2023年に入学しました。同じ志を持つ仲間とともに、初めて学ぶ看護の知識・技術を習得するために、毎日遅くまで技術試験の練習に励んでいた姿を懐かしく思い出します。また、地域交流会や小学生、中学生とのキャリア教育の経験からも看護を学ぶことへの興味・関心を高めてきました。

卒業生たちは、これまで幾多の看護臨床実習において、母体病院である京都中部総合医療センターをはじめ地域の施設、保育所などに実習を受け入れていただき、かけがえのない学びの機会となりました。実習での患者さんからの「ありがとう」の一言は教科書では学べない確かな看護の力、そして自信を与えてくださいました。また、技術や知識だけでなく、相手の心の声に耳を傾け、相手に心を寄せることの大切さを、地域の皆様の温かい言葉や姿勢を通じて学ばせていただきました。

皆様のご理解とご協力があったからこそ、本校は看護師育成という使命を果たすことができます。今後、卒業生たちは、この地で培った看護の礎と、皆様からいただいた愛を胸に、医療の現場で貢献してまいります。まだまだ未熟な面もあるかと思いますが、地域医療を支える新たな力として、精一杯歩んでいく所存です。

卒業生の皆さん、4月からは看護師として医療現場を担っていくことに不安な気持ちもあるかと思いますが今まで育てていただいた医師、看護師、医療従事者ならびに病院事務職員一同が優しく迎えてくださいますので、安心してください。そして患者さんから信頼される看護師としてご活躍されることを心から願っています。



卒業生の新たな門出にあたり、改めて、これまで本校の教育にご尽力いただきましたすべての関係者の皆様、そして温かく見守ってくださった地域住民の皆様に、心からの御礼を申し上げます。

今後とも、本校の教育活動並びに卒業生に対しまして、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



「1年間の学びを終えて」

1年生 いぬい まゆか
乾 真友佳

大学を経ての再進学で、当初は年齢差に馴染めるか不安でしたが、入学してみると背景も年齢もバラバラな仲間が多く、すぐに打ち解けることができました。この1年で、命を預かる責任感と基礎知識の重要性を強く実感しました。2年生からは専門的な授業や実習が本格化していきます。支え合える仲間が存在を力に変えて、一つひとつの技術に根拠を持って取り組み、理想の看護師像に一步步近づけるよう頑張りたいです。



「3年生に向けて」

2年生 ふじなが あんな
藤長 杏那

実習では自分の知識不足やアセスメント能力の未熟さを痛感する場面も多々ありましたが、対象者一人ひとりに寄り添う姿勢や、根拠を持って看護を考える大切さを学びました。

3年生では、これまで培った知識・技術・態度をさらに深め、より主体的に行動できる看護学生を目指します。

そして、患者さんにとって安心できる存在になれるよう努力していきたいと思っています。



「目指す看護師」

3年生 くぼた しほ
久保田 志穂

3年間の実習を通して、患者さん一人ひとりの背景や思いに丁寧に耳を傾けることの大切さを学びました。不安や葛藤を抱える中でも、その人が本来もつ力を信じ、その力を引き出す関わりが看護に求められていると実感しました。その学びを活かし、多職種と連携しながら患者さんの尊厳と自立を支え、その人らしい生活を守る看護師を目指したいです。



「語られる看護のこころ」 1年目看護師ナラティブ発表会・2年目看護師ケースレポート発表会

副看護部長 看護部教育委員会 まえばやし けいこ
前林 佳子

毎年恒例の1年目看護師による「ナラティブ発表会」と、2年目看護師による「ケースレポート発表会」を開催しました。ナラティブは、日々の看護実践の中で心が動いたできごとを振り返ってレポートにまとめ、看護の物語として仲間に語ります。ケースレポートは、担当患者さんの看護問題を明確にし、根拠を持って自ら立案した看護計画をチームメンバーと共に実践し、その結果をレポートにまとめ仲間と共有します。看護師の成長を促すための学習機会として、重要視している取り組みです。ご協力を賜りました患者さんに心より感謝申し上げます。



発表会では、患者さんとの関わりながら看護を実践した経験や、現場で患者さんの命や人生と向き合う中で感じた責任や喜び、そこから得た学びが、素直な言葉で語られました。知識や技術だけではなく、「そのひとを想う気持ち」が看護の原点であると痛感していることが伝わってきました。聴講した先輩看護師からは温かいメッセージが寄せられ、「看護のこころ」を共有する貴重な時間となりました。得た経験値を仲間と分かち合うこの機会は今後の成長の礎となるとともに、その他の看護職員にとっても初心や原点を見つめ直すよい機会になりました。教育委員会は、今後も学び合いを支える場づくりを大切にしていきたいと思えます。

看護の質を高める現場の探究

看護師長 看護研究・実践報告委員会 のぐち ゆみこ
野口 祐美子

2026年3月27日、看護部では第28回看護研究・実践報告発表会を開催しました。「つながる現場、ひろがる看護の力」をテーマに、病棟や手術室、地域包括ケア病棟などさまざまな部署の看護師が日頃の取り組みを共有しました。



看護研究委員会のメンバー

発表では、超緊急帝王切開術の急変時の行動手順の見直しや、記入漏れ防止を目的とした経過表レイアウトの改善とその効果、ケアワーカーとの協働による安心できる看護、手術室で求められる新人教育、末梢血管治療が患者・看護師に与える影響など、情報をつなぎ、時間を生かす実践と研究が報告されました。

参加したスタッフからは「他部署の工夫を知り自分の看護を振り返る機会になった」「患者さんの安全を守るためのヒントが得られた」との声が聞かれました。これからも現場で生まれた学びを共有し、地域のみなさんの命と暮らしを守る看護を深めていきます。

私たちと一緒に働かせませんか？
共に働く仲間を歓迎します！



副看護部長
まつおか みよこ
松岡 美代子

あなたの健康を守る、年に1度の大切なチェック



自覚症状がなくても、からだの中は変化します
年に1度の健診で生活習慣の見直しの機会に
気軽にできるMRI脳ドックで脳の健康チェック



健診センターのご案内

健診は、からだの中で起きている小さな変化に気づくための大切な機会です。また、健診の結果で生活習慣を見直す機会にもなります。

検査が全て終われば、検査結果について、当院の健診センターで医師が丁寧に説明し、必要に応じて院内の専門科へスムーズにご案内いたします。当院の健診センターでは、生活習慣病からがんの発見まで幅広い健診を受けていただけます。

身近に受けられる健診の窓口として地域の皆様の健康を支えていきます。



健診内容のご案内



- 人間ドック（日帰り）
- 市民健診（人間ドック・がん検診など）
- 生活習慣病健診（協会けんぽ）
- 法定健診・夜勤従事者健診
- 特殊健診（有機溶剤・特定化学物質など）

※ 化学物質などにより、対応していないものもあります。

※ 各オプション検査もご用意しております。

※ 詳細については、下記までお問い合わせ下さい。

MRI脳ドックのご案内

令和7年7月1日 新設しました



- 当日でも検査可能（平日のみ）
※ 状況により、待ち時間が発生します。
- レントゲンでは見えにくい部分まで細かく確認できます。
- 早めに異変に気づくことができます。
- 放射線を使わないので、からだへの負担は少なくなります。
- 検査時間 30分程度
※ 閉所恐怖症の方など条件により、ご受検いただけない場合があります。

お問い合わせ

京都中部総合医療センター 健診センター 電話（直通）：0771-42-2566

2026年5月13日(水)より

駐車場料金改定のお知らせ

【改定後の駐車料金】

利用者	駐車料金	備考
外来受診の方	・最初の30分無料 ・入庫より10時間まで200円 ・以降30分ごと200円	外来受診後に割引処理を行います。
上記以外の方	・最初の30分無料 ・以降30分ごと200円	



以下の方は無料になりますので、それぞれ必要な手続きをお願いします（詳細はスタッフにお尋ねください）。

- 入院日・退院日の患者さんの送迎
- 病院から来院の要請を受けた方（外来受診の方を除く）

詳しい内容は病院HPをご確認ください。

<https://www.kyoto-chubumedic.or.jp/news/newsparking/>



助産師・看護師・ケアワーカー 募集中!!



令和8年度 看護部新入職スタッフと共に

一緒に働く仲間、大募集
新しいこと、極めること、仲間とともに



看護師寮利用できます。（正職員）月額4,000円（税込）

詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.kyoto-chubumedic-ns.com/>



編集後記

春の気配が感じられるようになり、院内にも明るい話題が増えてきました。今号では、新任の先生方の紹介や看護学校の様子に加えて、透析部門の取り組みや健診センターの紹介も掲載しています。日頃から多職種で協力しながら、より安心して通院いただける体制づくりを進めている様子が伝われば幸いです。季節の変わり目、皆さまもどうぞ体調に気をつけてお過ごしください。

広報委員 Y.T

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。

